

さくら ほっと NEWS

特集

▶ 睡眠医療センター(ぐっすりセンター)が開設

P. 2・3

お知らせ

▶ 臨床シミュレーションセンターが開設しました

▶ 認定看護師のご紹介

P. 4

理念

当病院は、地域の中核医療機関として、高度かつ安全で開かれた医療を提供するとともに、質の高い医療人を育成します

基本方針

- ・ 大学病院として、高度先進医療を提供します
- ・ 高度情報化を進め、安全で開かれた医療を提供します
- ・ 医学教育を充実し、高い倫理観を持ち信頼される医療人を育成します
- ・ 名古屋都市圏の中核医療機関として、市民の健康と福祉を増進します

名古屋市立大学病院

患者さんの権利等

患者さんの権利

良質の医療を受ける権利
 情報を知る権利
 選択の自由の権利
 自己決定の権利
 機密保持を得る権利

患者さんは、人格や意思が尊重され、質の高い医療を平等かつ安全に受けることができます。
 患者さんは、ご自身の病気や治療について知ることができるとともに、十分でわかりやすい説明を受けることができます。
 患者さんは、ご自身の受ける治療について、ご自身で選択し変更することができます。また、他の医師の意見を求めることもできます。
 患者さんは、ご自身の受ける治療について、ご自身の意思に基づいて決定することができます。
 患者さんのプライバシーは十分に尊重されるとともに、個人情報には厳正に保護されます。

患者さんの責務

- 病院の規則や治療上必要な指示・助言を守って療養してください。
- ご自身の健康状態について、できるだけ正確に伝えてください。
- 説明を受けても十分に理解できない場合は、納得できるまでお尋ねください。
- 他の患者さんの権利を尊重し、暴言・暴力等の医療の妨げとなるような行為は行わないでください。
- 医療費の自己負担分は必ずお支払いください。

お願い

- 大学病院として、医療スタッフを育成するため教育実習を行っていますので、ご理解とご協力をお願いします。

vol.17
2011年5月

睡眠医療センター(ぐっすりセンター)が開設

寝ると大きないびきをかき周りに迷惑と言われる、お子様の寝息がおかしい、朝起きることができない、なかなか寝付けない、深夜何度も目が覚めてしまう、寝ている間に暴れるらしいなどの悩みをお持ちの方にぐっすり寝て頂くための睡眠医療センターが開設されました。



どんな病気がわかるの？

睡眠時無呼吸症候群

睡眠中に呼吸が止まる、もしくは呼吸していても体内に酸素が入らない病気です。呼吸器、循環器、精神疾患など多くの疾患を引き起こします。小児の場合は成長にも影響を及ぼします。

むずむず脚症候群

夕方から夜にかけて脚がむずむずし、不快感でなかなか眠れない、または寝ていると脚がずっと動いて深い睡眠が取れない病気です。自覚症状のない方も多く、見つかりにくい病気でもあります。

不眠症

なかなか寝付けない、深夜に何度も起きる、寝た気がしないなど。不眠症にも色々なタイプがあります。近年の生活習慣の多様化がさらに不眠症を悪化させているとも言われています。以前は年配の方に多いと言われていましたが、今では若い方の不眠症も増えています。

睡眠障害を伴う疾患

睡眠障害があると高血圧などのような循環器疾患、糖尿病のような代謝疾患、逆流性食道炎のような消化器疾患などが悪化すると言われています。近年当院ではめまいを引き起こすメニエール病も睡眠障害と関連することを発見し、睡眠の治療を行って効果を得ています。睡眠障害の伴う疾患はまだまだ氷山の一角と言われています。

睡眠検査を受けるには

まずはかかりつけの施設(病院、クリニック)より情報提供書をご持参下さい。外来で診察(水曜日)を受けます。問診により、どのような睡眠障害か分析し、検査プランを立てます。

終夜ポリソムノグラフィ (PSG検査)

必要のある方には2泊3日(場合により1泊2日)で入院検査を行います。初日の夜は頭から脚まで全身にセンサーをつけて寝て頂きます。翌日必要に応じた他の検査を行い、夕方までに前日の検査結果を含めて説明します。その結果に合わせた治療方針を立て、必要な方は2泊目に治療に入ります。



睡眠潜時反復検査(MSLT検査)

過眠症、ナルコレプシーなど、昼間でも長時間寝てしまう方に病気が潜んでいる場合があります。PSG検査に続いて暗幕を備えた部屋で昼間に睡眠検査を行い、睡眠疾患を解明することができます。



アクチグラフ検査

特殊な時計をつけることによって、生活リズムが障害された方の1週間から1ヶ月の生活リズムを調べます。入院中の睡眠検査で判明できない睡眠障害の方の生活リズムを分析し、疾患をみつけます。



どんな治療があるの？

睡眠時無呼吸症候群の場合、適応であれば写真のようなCPAP治療(呼吸をサポートする機械を使用)をします。患者様によってはマウスピース、手術などの適応になる場合もあり、後日の治療となります。また、ほかの睡眠障害疾患は2泊目に検査結果に合わせた薬物治療を行います。



どんなスタッフ？

日本睡眠学会認定医、認定技師がお世話をさせていただきます。さらに疾患に合わせて多くの診療科の先生と連携を取り、全身管理をさせていただきます。



臨床シミュレーションセンターが開設しました

周産期・新生児医療の充実を目指す愛知県地域医療再生計画に基づき名古屋市立大学病院臨床シミュレーションセンターが設置されました。このセンターは国の地域医療再生基金をもとに、愛知県が企画した周産期・新生児医療の充実計画に基づいて設立されたものです。

センターは、愛知県内全域の医療従事者を対象に、医学教育用シミュレーターを利用した研修を提供します。周産期医療・新生児医療を充実させるためには、救急医療に対する研修は必須のため、救急医療も加えた、3つの医療分野の研修を提供します。

地域の医療従事者が、臨床では稀にしか経験できないような状況を、多職種チームとしてシミュレーターで経験したり、実際の医療に臨む前に、シミュレーターで訓練したりすることで、チーム医療を促進し、医療安全を向上させることを目指します。

研修プログラムを順次開催するとともに、外部からの研修プログラムを受け入れ予定です。利用時には利用申請書を提出して頂き、申し込んで頂きます。詳しくは、ホームページ <http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/simncu/> をご覧ください。

臨床シミュレーションセンター長 笹野 寛

認定看護師のご紹介 — 新生児集中ケア認定看護師

新生児集中ケア認定看護師とは、急性期にあるハイリスク新生児の治療・療養の経過中に生じうる身体的及び心理社会的な有害事象に対して、予防的な観点から働きかけ、発達促進的、個別的なケアを実践することのできる看護師です。

看護ケアが必要になるハイリスク新生児とは、出生して胎外での生活に適應する過程において、障害を起こし、または起こす可能性のある赤ちゃんを指します。主に、出産予定日より早く産まれた赤ちゃんや、疾患を持つ赤ちゃんがその対象になります。

新生児集中ケア認定看護師の教育課程では、認定看護師として期待される能力を発揮するために、必要な知識や看護技術だけではなく、言葉で表現することのできない赤ちゃんの権利を尊重することの重要性を学びます。

言葉で表現することのできない赤ちゃんの一人ひとりの個性を理解するため、赤ちゃんからの反応を読み取ることや必要なケアをどのタイミングで行うかを考えることも重要となります。

現在、私達はNICU・GCU病棟に所属し、日々、赤ちゃんやそのご家族に対して優しい看護を提供するために、病棟のスタッフと協力しながら奮闘しています。これからも、病棟スタッフと力を合わせて、看護ケアの質の向上を図り、いつか赤ちゃんたちに認めてもらえるような新生児集中ケア認定看護師を目指しています。



左：山内綾子主任、右：西尾貴子主任

名古屋市立大学病院

ホームページの検索方法の案内「名古屋市立大学病院」で検索

検索

クリック

<http://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/>



このQRコードをケータイで読みとると簡単にホームページが見られます。